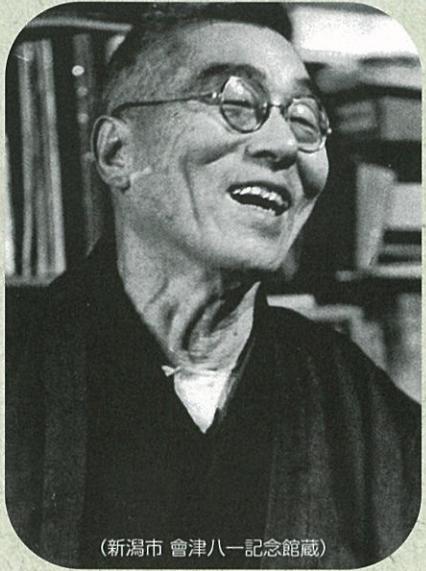


# 會津ハーユカリの地 中条



太總寺 歌碑

このたびは 會津ハーユカリの地 胎内市を訪れていただき、ありがとうございます。ハーユの生涯で重要な意味を持つ、中条疎開時代の一端に触れていただければ幸いです。

## ● 父（政次郎）のふるさと

胎内市（旧中条町）西条の地主であった丹吳家は、下越の豪農市島家と縁戚があり、その一族出身であるハーユの父（政次郎）が養育されたところです。

ここで育った政次郎は24歳のとき、新潟市古町通5番町の會津屋へ婿養子に入りました。丹吳家はいわば父のふるさとでした。その関係でハーユは学生時代にもここを訪れており、さらに昭和4年（早稲田大学附属高等学院教授時代）には中条小学校で講演をおこなっています。

## ● ハーユは丹吳家に疎開した

太平洋戦争末期 昭和20年4月の東京空襲によって罹災し、養女キイ子とともに丹吳家に疎開します。病弱だったキイ子は2ヶ月後に亡くなりますが、その深いかなしみを詠った歌集「山鳩」は、古都奈良の美をうたい上げた「鹿鳴集」（ろくめいしゅう）とともにハーユの歌の評価を不動のものにしています。

## ● ハーユの業績（学問と芸術）

ハーユは早稲田大学で英文学を専攻しましたが、卒業後奈良を訪れ、その美に触れてから東洋美術史の研究に入り「法隆寺・法起寺・法輪寺建立年代の研究」で文学博士の学位を受けます。しかしそれだけでなく中国のさまざまな書体から学んで作り上げた書や、若い頃愛読した万葉集を基調とする短歌、そのいずれにも独自の世界を築きました。現在その業績は他の追随を許さない高い評価を得ています。また学生に対するきびしさと愛情のある人間教育は、数々のエピソードとともに語り継がれています。

## ● 太總寺歌碑

西条町にある同寺は曹洞宗の名刹で丹吳家の菩提寺。重病のキイ子と共に、移り住んだ観音堂（丹吳家の持仏堂）の一部を移築し、そこにあった百体觀音も祀っています。観音堂の生活で詠んだ歌の一首「ひそみ来て 誰が打つかねぞ 小夜ふけて ほとけも 夢に 入りたまふ ころ」の歌碑が建てられています。（碑は原文どおりのひらがなで刻まれています）

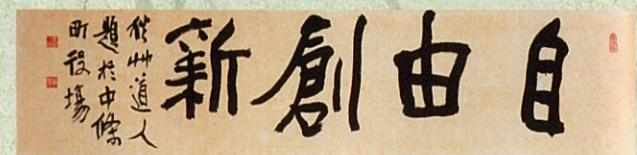




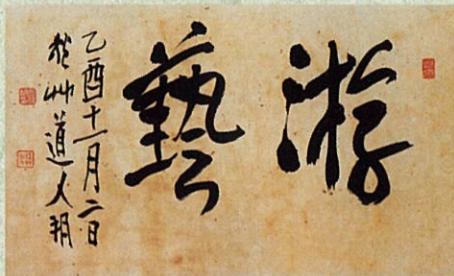
南都屋藏



百体觀音



胎内市役所



南都屋藏



**會津八一** (あいづやいち) 号は渾齋または秋艸道人。明治14年8月新潟市生まれ。早稲田大学文学科を卒業。母校で英文学のちに東洋美術史を講ず。大正13年歌集「南京新唱」刊行。昭和9年文学博士の学位を受ける。同15年歌集「鹿鳴集」同19年歌集「山光集」を刊行。同20年4月戦災により新潟県中条町西条(現胎内市)の丹吳家へ疎開。この間養女キイ子を病で失う。歌集「山鳩」(増田徳兵衛私刊)。同21年新潟市へ転居。「夕刊ニヒガタ」社長に就任。同28年宮中歌会始の召人として臨席。昭和31年11月死去。晩年は書作を主とし、新潟や東京で書画個展を開催した。早稲田大学名誉教授。新潟市名誉市民。

お問い合わせ 〒959-2643 新潟県胎内市東本町16番66号

中条會津八一会 (胎内市 中央公民館内) TEL 0254-43-2001 FAX 0254-43-3471

胎内市商工観光課／生涯学習課 胎内市観光協会

\*なお 事前に見学希望の申込みを要するものがあります。あらかじめご相談ください。

